



ふるさと会活動ご報告



会長 池田 克彦

前号から早半年過ぎ師走を迎えるシーズンとなりました。皆様お元気の事と存じます。わがふるさと会へのご支援ご協力有難う御座います。さて早速ですが、会活動と町便りをご報告とご案内を申し上げます。

1. 会の活動ご報告

- 1) 4月期・東京・別海ふるさと会総会に出席(市谷)・塩江町連合自治会・3地区の各会長に首都圏在住の会員募集をご依頼(塩江支所)。
2) 6月期・高松新市長大西秀人氏に表敬挨拶(高松市役所)。3) 7月期・当会役員会開催(津田沼)17年度・18年度事業報告と19年度・20年度事業計画の協議と今秋記念植樹の内容協議と東京・別海ふるさと会との暑気払い。4) 8月期・当会役員会開催(四谷)11月の記念植樹の内容協議。・東京・別海ふるさと会(根室管内ふるさと会連合会)主催の秋刀魚・鮭の食する会に参加(横浜こどもの国)。
5) 10月期・高松市役所(観光課)・塩江支所に11月の記念植樹の打ち合わせで訪問。・当会役員会開催(四谷)11月の記念植樹の内容協議。6) 11月期・東京・別海ふるさと会との合同で「植樹と紅葉のふるさとへの旅」と内場池緑地公園で記念植樹を実施。・高松市観光大使研修会に参加(都内銀座)。・環境シンポジウムに参加(塩江町上西小)。・高松市役所・塩江支所等へ記念植樹で御礼挨拶。

2. 町便り

- 1) うどんの国まちあるき〜うどんツーリズムが7月県内各地で。ふるさと回帰フェア2007が10月都内大手町サンケイビルで。さぬき映画祭2007が11月県高松市内で夫々開催された。3月高松市議会で塩江地区の過疎対策の質問があり、そばや黒大豆など特産品を生かした地域づくりを一層推進し過疎対策を講じたいと答弁がされた。
2) 上西小学校が市最南端に位置し全校生徒16人創立106年を誇る小学校として、子供たちが地域活動に参加していると紹介された。3) 6月第26回塩江ホテルまつりが自然休養村センター前広場で開催され、8月には塩江美術館で風鈴づくり教室が開かれた。4) 塩江上西の竜王山・大滝山周辺阿讃山脈麓での夏休み期間で森林浴のススメが奨励された。5) 塩江町コミュニティバスの運行見直しとされ、バスは小型、塩江〜奥の湯(朝1便増・昼2便減)奥の湯〜松尾(火水金の運行)東山地区(月木運行)樺川地区(月木土運行)菅沢地区(火水金の運行)となりました。6) 8月第29回塩江温泉まつりが開催された。7) 「まちかど漫遊帖でそぞろ高松ごゆるり参ろう」として、9月〜12月市内各地で開催、塩江では、安原の楠明子さんが「しおのえ事始め」塩江里あるきとオリジナル文鎮づくりに取り組んでいます。

特集 ふるさとの植樹 ふるさとの記念植樹

会長 池田 克彦

誰にもふるさどがある。と言う歌詞の歌謡曲があります。これを聴くとジーンと胸が熱くなります。昨年6月北海道・別海町に、東京・別海ふるさと会のお招きで「ハルニレの苗」の植樹をさせて戴きましたが、この植樹する意義が、次世代の子らに、ふるさと原景と山と川の自然を守る基礎となっていく様を想像すると、えらく心が震え感激をしました事を覚えています。ふるさとを出て50年近くなり、ふるさとは遠くにありて思うものの存在の一人となった今、ふるさとに何が出来るか俊巡する人がおられると聞き、日本の山川のふるさとの原景を残す塩江に植樹を行うべくご意思を集め、このたび高松市役所産業部観光課(田坂部長・国方課長・赤松副主幹)と塩江支所(中繁課長・尾形補佐・吉廣係長)にご支援をお願いし、地元では、藤川牧場主と恩師の二川利明先生のご協力及び記念碑に記載ある団体・組織の方々と、遥か昔住んでいたふるさとで合同の記念植樹を行う事が出来ました。参加して頂いた首都圏の方、それぞれふるさとをお持ちと思いますが、記念碑にあります言葉と共に、我が塩江を第2のふるさととして、何れかの時期にまた塩江をご訪問して戴きたく願います。また旧香山小及び塩中の同級生(光本君等・中條君・岡内君等)ご参加有難う。大阪から参加してくれた同級生(岡本さん：旧姓小笠原・伊藤さん：旧姓川崎)植樹した苗木の成長ぶりを見れる様時々塩江に帰省してください。この植樹で塩江茶を煎茶で上品にご接待戴いた尾形宗玲さん達有難う。最後になりますが、大西高松市長及び中井支所長と記念植樹に特にご尽力戴いた市・支所の赤松さん・尾形さんに感謝申し上げます。又東京・別海ふるさと会の真壁会長さん等と中野区在住の滑川さん皆様と宿泊・植樹のお世話して戴いたさぬき温泉・塩江造園・塩江温泉観光協会・NPO 奥塩江ボランティア協会に御礼を申し上げます。



(高松大西市長と記念写真)

塩江町で行なわれた記念植樹

高松市観光課 赤松 利幸



平成19年11月11日、第31回塩江もみじまつりが開催されている紅葉真っ盛りの日曜日に、高松・塩江首都圏ふるさと会及び東京・別海ふるさと会、日大OB会や地元の有志ら約50名により、ふじかわ牧場の隣にある内場池緑地公園駐車場で記念植樹が行なわれました。この植樹は、自然豊かで美しいふるさとを将来にわたり残そうと、池田会長の呼びかけで北海道や首都圏等から集まり、行なわれたものです。私は、地元民及び市の職員として受入宿舎の手配や、植樹場所の選定、苗木の手配、記念碑の製作、市役所との連絡調整等を行なわせていただきました。

樹種については、池田会長より全面的にお任せを頂きましたので、迷わず「イロハモミジ」と「枝垂れ桜」を選定しました。モミジは、塩江の美しい紅葉を代表する樹木ですし、桜は日本を象徴する樹木です。枝垂れ桜は、エドヒガンの一種で枝が長く垂れるものを、シダレザクラ(枝垂れ桜)又はイトザクラ(糸桜)と言うそうです。枝垂れ桜は長寿の桜としても有名で、天然記念物に指定されている巨木がたくさんあります。樹齢千年以上と言われ、天辺から地面まで滝のように枝垂れることから命名された福島県三春町の「三春滝桜」や、樹齢千五百年と言われ国の天然記念物に指定されている岐阜県根尾谷の「薄墨桜」は特に有名です。

今回植樹したモミジと枝垂れ桜は、それぞれ5本ずつで、いずれも樹高が3m以上ある立派な苗木です。地元のボランティア団体や有志で立派に育てたいと思っています。また、今回植えたモミジの中に、数百・千本に一本と言われる、葉全体がまるでイチョウのように黄色く紅葉する「黄金色のモミジ」が含まれています。地元の造園業者が種から育てたものですが、「数十年間庭木を扱ってきたが、これほど黄色一色に紅葉するモミジには初めて出会った」と言っていました。4月の桜や9月中旬の紅葉時期には是非、見に来て頂きたいと思います。(市内塩江町上西在住)

今回植樹したモミジと枝垂れ桜は、それぞれ5本ずつで、いずれも樹高が3m以上ある立派な苗木です。地元のボランティア団体や有志で立派に育てたいと思っています。また、今回植えたモミジの中に、数百・千本に一本と言われる、葉全体がまるでイチョウのように黄色く紅葉する「黄金色のモミジ」が含まれています。地元の造園業者が種から育てたものですが、「数十年間庭木を扱ってきたが、これほど黄色一色に紅葉するモミジには初めて出会った」と言っていました。4月の桜や9月中旬の紅葉時期には是非、見に来て頂きたいと思います。(市内塩江町上西在住)

Table with 2 columns: 植樹参加者氏名 (Tree planting participants) and 実施・協力団体 (Organizers/Supporting organizations). Lists names of individuals and various local organizations involved in the tree planting event.

(記念植樹の碑)



(黄金のもみじを植樹・塩江造園)

悠久の地讃岐を旅して

東京・別海ふるさと会 会長 真壁 伯良



平成 12 年 7 月 14 日～17 日の日程で「東京・別海ふるさと会」と「首都圏ふるさと塩江会：現在は高松・塩江首都圏ふるさと会に改称」は、第 1 回目の合同旅行で北海道旅行を致しました。

7 月半ばともなれば知床にも暑い夏が訪れていましたが北側にはまだ残雪が見られ、ある東京の方が、美しい山並みを望みながら、この素晴らしい自然を守るために、私達も寄付をさせて頂いたと話されたことに私は甚く感度致しました。後に私も遠き人々の崇高な思想に共鳴し僅かですが寄付をさせて頂いた。その頃、麓の街、斜里町では荒廃し続ける知床の自然を憂い、土地を買い戻すため全国に寄付を募っていました。別海町は酪農と漁業の町ですが、牧草地を増やすため樹木が伐採され、自然に川は痩せ細り漁業にも影響が出ていました。その頃、漁協の婦人部の方々が植林をしていることを知り、創立十周年を迎えた東京・別海ふるさと会は、植林のお手伝いをする事決意し昨年、別海町上春別南10番地「ふるさとの森」にミズナラの木 100 本、そして「高松・塩江首都圏ふるさと会」も記念植樹されました。今回、池田会長はじめ役員の皆様のご尽力そして高松市の関係者のご理解により素晴らしい植樹会が実施され、また、子々孫々に残る記念碑を設置されましたことに敬意を表しますと共に心からお慶び申し上げます。また、讃岐うどんの講習会や観光、そして大西高松市長はじめ中井前塩江町長を表敬訪問することが出来大変光栄に存じます。また、水沼別海町長のメッセージをご披露する機会を頂き誠にありがとうございました。最後になりましたが、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。(神奈川県在住)



(記念植樹会場：首都圏地元の人々)

ふるさとの植樹

高松市塩江町上西 光本 信一



野山が秋色に染まる頃、2007 年 月 11 日(日)首都圏に在住している我ふるさと塩江町出身者と北海道別海町等の出身の方々が、塩江町紅葉祭りに合わせて、記念植樹で多勢来町されました。この日高松市、塩江町の関係者、地元協力団体と共に午前 9 時 30 分内場池緑地公園に集まり、冒頭この記念植樹を企画実施され、いつの日も故郷に思いをはせ、長年塩江を愛し続ける高松・塩江首都圏ふるさと会の池田会長がこの美しいふるさとの山河を子供たちに繋ぎ自然の山や川を守る趣旨の挨拶がありました。

その後、参加者は手分けしスコップ等を手に枝垂れ桜ともみじの木を各 5 本づつ地元の塩江造園の指導のもと 1 本 1 本丁寧に植え付け、風雨に耐えるように、木にはしっかり竹の支柱で固定し給水車を使い水もやりしっかりと植樹作業を終えました。



(旧香山小・塩中卒業の同級生元塩中の二川先生)

記念植樹の碑の除幕式を行い参加者全員の記念写真撮影があり、この記念碑には、ふるさとを想う情感溢れた自然を愛する言葉が表されています。参加者の氏名・団体名も一緒に記入されていました。約 1 時間半の行事も終了し首都圏から来町された方々は、所定の日程通り旅行され無事帰京の途につかれたそうです。参加者の一人として本当にお疲れさまでしたと申し上げます。幸いにも、この植樹した場所が自宅から500m程の日々通る身近な緑地公園内であることから大変うれしく思っております。これからは、この苗木が大きく育ってくれるのをお願い見守り続ける決意です。この厳しい冬の寒波に耐え春にはきつと花を咲かせてくれると思います。5 月頃には、どの木も新芽から若葉の黄緑から緑に早変し、他木に先んじて大空の太陽に向けて大きく育ってくれると期待しております。春夏秋冬四季によって変化する木の写真と共に状況をふるさと会の皆様また参加されました皆様に報告してまいります。そしていつの日か成長した木の下で色々行事祝宴等を楽しみたいものです。この公園は桜の名所でもあり花見で賑わいます。秋には紅葉と自然ゆたかなこの地に全員の方々に再度のご来訪していただきお会いできることを心からお待ちしております。その時は、しっかり応援させていただきます。この度は大変ご苦勞様でした。そして地元塩江での植樹有難う御座いました。(塩江町上西在住)

植樹と紅葉の塩江町を旅して

東京・別海ふるさと会 滑川 静子



11 月 10 日から 2 泊 3 日の日程で、高松・塩江首都圏ふるさと会の皆様と東京・別海ふるさと会の仲間総勢 30 人で高松・塩江町へ植樹に行ってきました。まずは、高松空港から観光バスで市内観光、源平古戦場あとの屋島は遠くから見ると屋根の形をしております。次に、高級な墓石の取れる石の町庵治町へ。アジ町と読むそうです。四国八十八ヶ所 88 番札所の大窪寺へ、味わい深い古刹でした。昔、口減らしのため巡礼に出たと聞いていますが、最後の大窪寺へ辿りつけるのはそう多くはなかったと思います。山路を何ヶ月もかけて歩き、中には行き倒れもあったろうし、遠い昔に思いをはせて感慨ひとしおでした。2 日目、塩江造園の方々のご指導で、枝垂れ桜とモミジの木を 10 本植えました。



(中井支所長・中繁課長と記念写真)

木の周りを 20cm 位離して 5~6cm 位の溝を掘り、水を張る植え方は、水不足の土地ならではの植え方があるものと感服です。「うどん」作りは、薄く伸ばした生地を折りたたんで切るのですが、つな切れを防ぐためは生地の中に粉を入れるとうまくいくと教わりました。光照寺では塩江茶をご馳走になり、蓋つきの茶碗に茶葉を入れ、蓋をずらして飲む、吸茶とおっしゃいましたが、まさに中国文化でした。夕食後の「カラオケ」大会では、僭越ながら審査委員長をおおせつかり、どなたにも甲乙つけられない状態でしたので、美男美女に賞を差し上げる事にしました。最後の行程は、栗林公園は松の公園です。栗林から松林に変わった理由は殿様と家来との関係を如実に現してとても興味深いものでしたが紙面の都合上省きます。池田会長さま、真壁会長さま、皆様、思い出深い楽しい旅をありがとうございました。(東京都中野区在住)

事務局より

植樹が四国新聞に取り上げられました。寄付金のご協力有難う御座いました。植樹場所近くの内場池湖畔に、中高年・定年退職者向け第 2 の人生を楽しむ施設として、セカンドステージ(TEL087-893-1100)が立ち上がりました。ふるさとにもう 1 度住んでみませんか。首都圏・関西圏・県外の在住ご夫婦の方も大歓迎です。お問い合わせは上記電話番号まで。

編集後記

枝垂れ桜とモミジの記念植樹が、内場池緑地公園で、多くの有志の方々によって盛大に行われました。「ふるさと塩江」は、いつまでも自然に恵まれた環境であってほしいと願っています。帰省した際には、ぜひとも、訪れたい。次号は、来年 3 月を予定します。(編集人 矢田敏雄)